

令和5年6月30日

令和4年度 特別の教育課程の実施状況等について

栃木県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
足利市立御厨小学校	足利市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

本市全小学校において、平成15年度より取り組んできた英会話学習の内容と外国語活動・外国語科の内容を関連づけた独自の年間指導計画を作成し、「話すこと」「聞くこと」に特化した指導を行うことで、英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。

必要となる教育課程の基準の特例については、「教育課程特例校編成の基本方針等について」を参照。

2. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- ・実施していない

(3) 自校における評価

- ・第1学年からの英会話学習の実施が、英語によるコミュニケーションの基礎的な能力の育成につながっている。第1学年からEAAと接することで、児童は外国人とふれ合うことに抵抗なくコミュニケーションを図ることができている。
- ・1年生でも、どの児童にも話す機会が設けられ、英会話の時間を楽しみにしている児童が多く、学習の成果が感じられる。
- ・低学年からの積み重ねにより、高学年では外国の文化や英語を聞くこと、話すことに抵抗感がなく意欲的な様子がみられる。

(4) 学校関係者による評価

<児童>

- ・英会話学習の時間を楽しみにしている児童が多く、ALTやEAAに積極的に挨拶をしたり話しかけたりして、自然にコミュニケーションをとることができている。
- ・5、6年生の英語チャレンジDAYでは、海外旅行に行く設定で、多くのALT・EAAを相手に買い物や食事の場面での会話を楽しんだ。よりリアルな体験を通して、英会話の使用場面が明確化された。

<保護者>

- ・英会話学習、外国語活動の様子を学年だよりや学校だよりで紹介することで、家庭で英語の学習について話をするきっかけとなっている。
- ・今後、授業時間をもう少しとる必要があると考えている保護者がいることが学校評価から窺えた。

3. 実施の効果及び課題

- ・授業で早くから外国語に触れ、違う文化を感じ続けていることにより、外国籍の友達に対しても違いを尊重しながら、学校生活を送ることができている。
- ・タブレット学習で、英語を積極的に選んで学習を進める児童が学年を問わず多い。
- ・児童の生活の中で、学習した英語が自然に発せられるようになることを目指したい。

4. 課題の改善のための取組の方向性

- ・授業ではなるべく教員が英語で説明したり、コミュニケーションを図ったりするよう努め、児童がより英語に慣れ親しむよう取り組んでいく。また、発音を練習する場面ではALTやEAA、デジタル教科書を積極的に活用し、児童のリスニングや発音の力を伸ばしていく。また、教員の発音や会話力を高めるため、普段からALTやEAAと積極的にコミュニケーションを図り英語で会話する機会を設けたり、教材研究をする際には、デジタル教科書を使って発音や会話文をしっかりと確認しALT・EAAとの打合せを綿密に行ったりする。
- ・指導の際には、担任は各学年での学習内容を把握し、系統性を意識して指導にあたっていく。高学年に関しては、オンラインを利用した他校との交流や、修学旅行での班別行動の際に英会話を実践する機会を設ける等、学習したことを実践する場を設定したい。